

学校便り 11月号

令和7年11月4日発行

和歌山市立岡崎小学校

学 校 長

朝夕は秋を通り越して、一気に冬が到来したような寒さで、布団から出るのがつらくなってきました。しかし、日中は、日が差すと暖かさを感じられ、子どもたちは熱中症を気にして遊べなかったことを取り戻すかのように、運動場で元気に走り回っています。

秋は食欲の秋、そして読書の秋。子どもたちが大きく伸びる時期でもあります。先日読んだ読売 KODOMO 新聞（令和7年9月25日発行）に下のような記事が載っていました。



《ありを寄せつけない砂》

2年生の時から研究を続けて発明したのが、アリが嫌がる成分を含む「キラ星の砂」です。刺されると重いアレルギー症状を引き起こすヒアリなど、害があるアリを住みつかせない効果が期待されています。

《繰り返し使えるストロー》

小学校3年生の時の自由研究をもとに、繰り返し使えるストローを開発しました。

（一部抜粋）

「すごいぞ 発明キッズ」の2人は、「アレルギーの原因となるヒアリを住みつかせたくない。」「プラごみをなくしたい。」という思いから、子どもが長年研究し、実を結んだ発明の例です。岡崎小学校の子どもたちも、日々、様々な思いをもち、いろいろな発見をしています。自分の発見はだれしも、その価値がわかりにくいものです。そんな子どもたちに、その価値を分かちあわせて、西側の非常階段下にある掲示板に「すごいぞ 岡崎キッズ」を掲示しました。10月には、ノーベル賞受賞（生理学・医学賞 坂口志文さん 化学賞 北川進さん）の嬉しい知らせも届きました。「夢は大きく」の思いで、これからも子どもたちの活動に寄り添い「すごいぞ 岡崎キッズ」を、たくさん発見したいと思っています。

また、10月29日の運動会のご参観ありがとうございました。最初は雨プログラムでのスタートでしたが、子どもたちの頑張りや、保護者の皆様、地域の皆様のご協力のお陰で、全行程を終えることができました。閉会式で、練習の成果を出し切り、満足そうに整列している子どもたちの姿が印象的でした。保護者の皆様や地域の皆様の、温かいご声援、本当にありがとうございました。